当たり前じゃない、この自然
～ネイチャーポジティブで守る群馬の恵み～

「ネイチャーポジティブ」という言葉を知っていますか？

ネイチャーポジティブとは、損失が続いている生物多様性を回復軌道に乗せるという考え方です。2030年までに生物多様性の損失を反転させ、2050年までに完全回復させるという目標が国際的に掲げられています。

そこで県では、昨年12月に「ぐんまネイチャーポジティブ宣言」を行い、その実現に向けて企業を後押しする取り組みなどを行っています。

今回は、県内の企業や団体が行うさまざまなネイチャーポジティブ活動を紹介します。

私たちと自然のつながり

奥山

人里離れた山の奥深くのことを「奥山」と呼びます。木の伐採など適切な管理をし、地面に光を届けることで、草花が成長し豊かな土壌が育まれます。そこに染みこむ雨水の浄化にもつながります。

里地里山

人が暮らしながら自然と共に手入れをしてきた場所が「里地里山」。人が活動することで野生動物との緩衝地ができ、農作物などへの獣害の発生を減少させる効果があります。

市街地

住宅や店などが密集し、経済活動が活発に行われる「市街地」。公園や街路樹、川や緑地などが生物の生息地になるとともに私たちの暮らしを豊かにします。

安中市にある崇台山（そうだいさん）山麓の里山再生活動を行う櫻田さんにお話を伺いました

植生が豊かな崇台山にもっと多くの人に訪れてほしいと思っていましたが、山麓の里山は篠藪が広がり荒れていたため、再生活動を始めました。地元の人と協力して整備したり、花畑を作ったりした結果、希少な昆虫が集まるようになり、うれしかったです。

またこの地の生物多様性や、自然再生の計画や活動が評価され、昨年「自然共生サイト※」に認定されました。

自然の再生活動で一番大切なことは「継続」だと思います。ここで自然に触れた人たちにその大切さを伝承できるような環境づくりを続けていきたいですね。

※環境省が認定する、民間企業や地方公共団体、個人などの取組によって生物多様性保全が図られている場所

里山の花畑・
里の小屋 友の会
代表　櫻田（さくらだ） 稔（みのる）さん

▲ルリモンハナバチ（県の準絶滅危惧種）

▲アサギマダラ

ネイチャーポジティブ経営で自然を守る

「ネイチャーポジティブ経営」とは、企業などが商品やサービスを提供するときに、自然を守ることを重要課題として位置付ける経営のことです。損失が続く生物多様性の回復には、経済活動の主体である企業がネイチャーポジティブ経営へ移行していくことが求められています。

県庁自然環境課
係長　原田（はらだ） 林太郎（りんたろう）さん

ぐんまネイチャーポジティブ推進プラットフォーム

県ではネイチャーポジティブ経営に取り組んでいる、または取り組もうとする企業や団体の交流の場を設けることで県内のネイチャーポジティブを推進しています。

▲詳しくは
こちらから

ネイチャーポジティブ経営について学ぶセミナー開催の他、企業や団体、自治体間の協業のマッチング相談なども行っています。取り組みを進める上での課題や悩みなどぜひご相談ください！

県庁自然環境課
鏑木（かぶらき） あゆみさん

ネイチャーポジティブ経営に取り組む企業を紹介！

産業と自然の共存を目指して　サンデン株式会社（前橋市）

サンデン株式会社
福田（ふくだ） 博一（ひろかず）さん

サンデン株式会社はカーエアコンなどの製造を主な事業としています。新工場の建設が必要となったとき、世界的な環境保全の流れを考慮し、自然と共存できる工場のあり方を検討しました。そして赤城山南麓に敷地の半分を森林として整備した「サンデンフォレスト」の建設が決まりました。

ここでは環境と共存するためのさまざまな工夫をしています。例えば、地形に沿って分割して工場を建設することで、大規模造成を回避したり、造成当時は荒れ地だった敷地に３万本の木を植樹したりしました。また調整池にはあえて水深の差を設けることで、将来ビオトープとなるようにしました。建設後も草刈りや特定外来生物対策を行ってきた努力が実り、現在では工場建設前よりも多い、800種近い里山特有の在来種が生育・生息する森へと成長しています。

今後もこの自然を守っていくために「サンデンフォレスト」を活用して利益を生み出し、その利益をこの活動に還元するという好循環を作ることができればと考えています。

そこで環境保全活動を継続するためのヒントを得るため「ぐんまネイチャーポジティブ推進プラットフォーム」に加入しました。他の企業や団体、自治体とさまざまな情報交換の機会を得られることを期待しています。交流の中から生まれる新しい発想でネイチャーポジティブの実現にさらに貢献できるよう、活動を続けていきたいです。

▲環境共存型の工場「サンデンフォレスト」の様子

▲キンラン（県の絶滅危惧種）

▲フクロウ

「自然に従う」生き方を　有限会社きたもっく（長野原町）

＼これが「コロ薪」です！／

有限会社きたもっく
代表　福嶋（ふくしま） 誠（まこと）さん

雄大な浅間山がそびえ立つ北軽井沢の自然の素晴らしさを、多くの人と共有したいという気持ちからキャンプ場を立ち上げることに。木も生えていなかった荒野を居心地の良い空間にするため、まずは植樹が必要だと考えました。十分な資金もなく、苗木から育てると時間もかかるので、森で大きな木の陰になり十分に育っていなかった幼木をキャンプ場に植え直しました。この時植えた３千本の木は半分以上が枯れてしまい、自然の厳しさをあらためて学びました。このような経験から「自然に従う」という生き方を意識するようになりましたね。

その後キャンプ場を15年ほど運営し、さらなる会社の成長のため冬場の営業を開始することにしました。薪ストーブなどでこれまで以上に薪を使うことから、使用する薪を自分たちで製造する仕組みを考えました。山林で適切な伐採を行い、キャンプ場で使う薪や炭、細い木は「コロ薪」に、良質なものは建材として有効に活用しています。

しかし山や木は何年もかけて成長するため、利益が出るまでに長い時間が必要です。そこで山の草花を生かして、短期間で利益がでる養蜂業も始めました。

ネイチャーポジティブをさらに進めていくためには、その取り組みが企業の利益につながるという仕組みを、どう作るかが重要だと感じています。私たちが30年に渡り意識して続けてきたのは「自然を守る」「自然資本を余すことなく使う」「しっかりと利益を得る」という考え方。このビジネスモデルが、これからネイチャーポジティブ経営に挑戦する企業の希望になると良いなと思っています。

▲きたもっくの蜂蜜

▲30周年を記念して作られたキャンプ場内のツリーハウス

群馬県の豊かな自然を守っていくためには、私たちが身近な自然に親しみその価値を理解することが大切です。

８ページのおでかけGuide（ガイド）で自然と触れ合える場所を紹介しています。ぜひ、足を運んでみてください。

問い合わせ先　県庁自然環境課　☎027-226-2872